

KANAGAWA



社団法人 神奈川県建築士事務所協会

URL <http://www.j-kana.or.jp/>

E-mail info@j-kana.or.jp

2011 年
12 月号

VOL.362



HP情報

- 【フラット35】Sエコのご案内
(住宅金融支援機構)
- 国土交通省より4号建築物の設計
に係る注意喚起がなされました
- 都市計画法施行令第25条第6号
ただし書きの運用基準について



目次

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| ①② 建築探訪 | ⑪⑫ 委員会活動報告 |
| ③④ 今我々にできることは | ⑬ シリーズ建築Q&A |
| ⑤ 会員建築作品紹介 | 旅のクイズ |
| ⑥ 歴史的建造物を訪れて | ⑭ 事務局便り |
| ⑦⑧ シリーズ ぶらり街並み散策(山手クリスマス特集) | 編集後記 |
| ⑨ 委員長会報告
中間監査会報告 | |
| ⑩ 阪急交通社との提携報告
本の紹介 | |

被災された単位会の仲間へ全力の応援を!!

「英勝寺山門復興」

藤沢支部 甘粕 博史



鐘楼

英勝寺の山門の落慶式が平成23年5月16日に行われました。平成13年に山門復興事業が興され、解体・保管されてから実に10年の歳月が経過しました。その間、平成15年には、山門は解体された材料の状態で神奈川県重要文化財に指定されました。

1

英勝寺は、寛永11年（1634年）3月16日、太田道灌ゆかりの地である扇谷にお勝の方（後の英勝院）によって建立されました。お勝の方は13歳で徳川家康の寵愛を受けましたが、家康との間に生まれた市姫が幼く亡くなった後、家康の命により、水戸徳川家の初代藩主である、徳川頼房の養母となりました。以来、住職は明治に入るまで、水戸徳川家の女性が務めました。駆け込み寺で有名な東慶寺と違い、水戸徳川家と強い絆で結ばれ、一般の寺院の



唐門

ような檀家を持つことはなく、水戸徳川家の菩提寺でした。また、現在、鎌倉にある唯一の尼寺です。英勝寺は檀家をもっていませんでしたが、寛永14年（1637年）寺領朱印地として徳川家光から、三浦郡池子村（現逗子市池子）420石を与えられたほか、裏山にあたる源氏山も与えられています。当時、円覚寺270石、建長寺186石と比べても多く、鎌倉第2位の寺領高を持っていました。



仏殿

境内には、山門の他、仏殿（本堂）、唐門、祠堂、鐘楼があり、いずれも神奈川県重要文化財に指定されています。仏殿は英勝院が建立し、徳川頼房が現在の形に改築したと考えられています。扁額は後陽成天皇の弟である曼受院良怒法親王の揮毫です。唐門は祠堂に至る石段下の入口にある小門で、祠堂と共に建てられたと考えられます。欄間には精巧な牡丹等の透かし彫りが施されています。祠堂は徳川光圀に建立されたと言われており、内外は日光東照宮を思わせる鮮やかな彩色装飾が施されています。鐘楼は、近世の鎌倉では唯一とされる袴腰形式の鐘楼で、梵鐘は寛永20年の林羅山選文の銘を持っています。

復元する山門は、寛永20年（西暦1643年）水戸徳川頼房の長子で讃岐高松藩主となった松平頼重によって建立されたものですが、奉行は野村宗右衛門尉源尚治、棟梁大工は森源兵衛藤原正友、副大工は岡村久左衛門藤原宗吾で、



寛永13年建立の仏殿と施工者等が同名であります。

山門は関東大震災で倒壊しましたが、英勝寺

では山門の復旧まで手が回らず、壊れた部材は、薪として3円50銭で売りに出したのです。部材は、文化事業等に熱心な、三井銀行取締役を退いたばかりの間島弟彦氏に買い取られ、2

千円の巨費を投じて自邸「白水荘」に復元しました。その後、白水荘の所有者は似鳥氏に代わったりしましたが、平成13年に敷地の権利者である宝戒寺の好意により、英勝寺に返還されることになり、解体されました。解体時の調査事項、記録写真、図面等の資料として

詳細な「英勝寺山門解体調査報告書」が刊行されています。山門は禅宗様を基本とした三間二階二十門です。桁行は20尺で、小規模な仏殿に見合うようにやや小さめに造られており、建築形式は仏殿と共通する特色が多くみられます。屋根は瓦棒銅板葺きで、軒反りのない特異な形式で、上層の扇垂木・詰組、柱の粽・礎盤、三棧唐戸など、ほぼ純粋な禅宗様ですが、下層の中備に蓑股を用いるのは仏



殿裳層の扱いに共通しています。様式的にも仏殿と一対と見なされるものであり、英勝寺の伽藍構成

上きわめて重要な位置を占めています。山門は数少ない江戸時代初期の建物であり、良質の建材と格調高い意匠がふんだんに用いられており、建立時の施主や大工の名が知れる等



貴重なもので、国指定重要文化財にもなり得る文化財であり、境内に復元し後世に伝えていくべき建築物とされています。

（神奈川県教育局生涯学習課作成文書）（山門について）

また、山門復元工事は4カ年で計画されて、初年度（19年度）は着手準備、

各調査書作成、古材清掃、地盤載荷試験が行われました。2年目は基礎、基壇整備工事が行われ、3年目は足場掛け工事、新材古色塗り、立柱式、上棟式等が行われ、4年目に完成し、5月16日の落慶式を迎えました。



◆英勝寺

住所：鎌倉市扇ガ谷1-16-3

拝観料：300円

拝観時間：9:00～16:00

今我々にできることは・・・。

～これからのエネルギーを考える～

県西支部 稲葉 勉

A. フラーの「宇宙船地球号操作マニュアル」に学ぶ

建築家バックミンスターフラーは日本でも富士山のレーダードームに採用されたあのフラードームの考案者です。



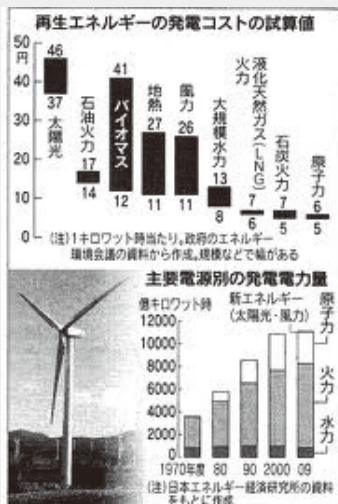
地球を正20面体で示すと面積が正確な地図ができるのもフルーの発想です。

我々は動植物を含め宇宙船地球号の乗組員で、その宇宙船を現在いるところで、それぞれができることで操作の任務に就いているという、宇宙から見た視野の発想です。フラードームに限らずフルーは最小のコストで最大の効果を上げる研究もしています。

この本ではじめに書かれていることは、現在おかれた状況を考えるのにとっても象徴的です。

「私は、人間の独創力しかも時には大変即応性の高いすぐれた独創力がたまらなく好きだ。あなたの船が難破して救命ボートも全部なくなってしまったとする。その時、うまい具合にあなたを水に浮かべるだけの浮力のあるピアノの蓋があれば、偶然な救命具となるだろう。だからと言って、救命具の最良のデザインがピアノの蓋の形だというのではない。ただ、昨日偶然に考えたにすぎない工夫を与えられた問題の唯一の解決法と思い込む点で、我々は、大変多くのピアノの蓋にしがみついていると思われるのだ。」

そして、我々は本当のことを自ら知ることのできる時代に入りました。次の記事を読んでください。（植原紘治氏ルンルの会HPから引用）



B. 発電方式を見直す時

－2011年8月12日：日経朝刊からの画像（右記グラフ）－

このグラフには大きな嘘が含まれています。原子力発電のコストに関して後で記述するように燃料以外の膨大な費用が除外されています。結論から言えば液化天然ガスによる火力発電と石炭による火力発電が圧倒的に低コストである事が読み取れます。私の理解が疑似科学的な思い込みではない証拠が、日経新聞に掲載されたのです。現時点でも火力発電が主力である事は一目瞭然です。

発電量1%に過ぎない太陽光・風力発電が、今後主力になるような幻想を民衆に擦り込むのは疑似科学レベルにも達しないおとぎ話です。そのおとぎ話から派生した再生可能エネルギー特別措置法案に群がる企業が増えています。正義の仮面を被って金儲けができるのですから、こんなおいしい話は滅多にありません。

C. 武田邦彦氏の参考意見

1. 原爆と原発事故を経験した日本は、脱原発モデル国になる役割を担う。
2. 風力発電、太陽光発電、バイオマス発電等は補助的な存在でしかない。
3. 火力発電は進化している、原発を全廃しても発電量、環境負荷、持続性等の面で切り替え可能なガス・コンバインド発電やIGCCを知ろう。

※火力発電を中心にとすると燃料費がかさんで赤字になると言う電力会社の主張には大きな嘘があります。原発の莫大な建設費用、立地地域への補助金（電気料金に上乗せされた対策費を税金として納めたお金から）、報道されない事故の処理費用、まともに処理できていないのに莫大な費用がつき込まれている汚染廃棄物処理、定期点検と巨大地震や津波に対処する改善費用、原発から都市部への長距離送電に要する費用、いざ事故を起こした時のとてつもない賠償金、政治家への献金、莫大な研究費をつぎ込んだが危険すぎて前に進まない高速増殖炉及びプルサーマル、その他国民に知らされていない諸々の費用を合計すると、原発はとんでもない金食い虫発電です。更には今後生じるであろう放射能汚染による健康被害は、お金に換算できない不幸を日本国民にもたらします。

4. 当面は発電に必要な液化天然ガスの海外調達を増やす必要はあるが、将来的には国産の天然ガス（メタンハイドレート）で賄える可能性がある。
5. 消費地の近くに発電所を設置できるので送電ロスは減少し、天災が起こっても停電は局地的となる。
6. 燃料電池等の研究は日本が進んでおり、量産化が進めば家庭や企業毎に安定した電気を自給可能となる。太陽光パネルは街灯の電源等に用途が限定され、家の屋根に取り付けたものは過去の遺物となる。

D. 現実化しつつある第3起電力

最後に電気の作り方は進化しているんだと思っていたら、驚いたことにマイケル・ファラデーから180年間変わっていないことがわかりました。しかし、再度驚いたことに、日本人の井手治氏が「第3起電力」装置を完成させ、今年3月アメリカの学会で発表し反響を呼んでいます。井手治氏、フリーエネルギーと検索してみてください。本も11月に出版されています。原子力も石油もいらない時代がここまで来ています。

3.11以降、今我々にできることは、宇宙船地球号の乗組員として、本当の情報を自ら素朴な疑問を持って知り、そして近く軌道修正で大きな揺れが起こっても驚かないように、新たな考え方の準備をしておくことではないでしょうか。

エネルギー資源と社会経済システムが次世代に進化し移行するのは大変なことです。今の危機的状況を転換期のチャンスととらえ、一から考え方を見直してみる時なのかもしれません。

会員建築作品紹介



「特別養護老人ホーム 愛成苑」

(神奈川県横浜市瀬谷区 鉄筋コンクリート造 3階建て5,262.09 m²)

横浜支部 平山 正義

横浜市郊外に建つ特別養護老人ホームです。建設地は「瀬谷市民の森」に隣接し、緑豊かな環境にあります。

どこからでも、建物の全ての面がよく見える状況です。

そこで、廻りの自然環境と同化しつつ、やわらかい景観を創るため、新たに緑化システムを開発し、外部デザインしました。従来の壁面緑化の様に「つる植物」を用いるのではなく、「常緑、落葉、蔓、草木、花木、果樹」等の多種多様な植物で、季節感を演出する「バーチカル（立体）緑化システム」としました。

この緑化システムは、外部からだけでなく、室内からも草木や花木を楽しめますが、自由に外出できない入居者にとって、バルコニーが格好の「緑の散歩道」になる等複数の機能を持った外皮デザインです。

また、夏季には葉が拡がり日射を抑制することで、温熱環境、住環境向上にも寄与しています。

この建物は用途上全周に避難用バルコニーが必要であることから、バルコニーの手摺支柱を兼ねたランダムなピッチで上下階を結ぶ

ように取付けられた「緑化柱」に、専用の土を容れた不織布製「ポット」を取付け植樹しています。

バルコニーは上階でセットバックしており、平面的な曲面ともあいまって、建物全体が有機的なフォルムを形成しています。

緑化柱は、採光や通風を考慮し適度な間隔で設置しましたが、見る位置や角度によっては、緑が折り重なり、様々な表情をみせています。

緑化システムは、東西南北全ての面に施しており、方位に適した29種の植物を植えています。

植物は日本在来種で、春夏秋冬それぞれに季節感を演出するものを選びました。

「つる植物」による壁面緑化は、成長により経年で仕上がるものですが、本緑化システムは専用のファームにおいて、実際にポットに植樹し、緑化柱に取付けた状態で数ヶ月間生育養生し、耐性を付けた後取付けていますので、施工後の姿は完成形となっています。

～歴史的建造物を訪れて～

Vol.49

「落水荘」

横浜支部 高橋 保博

数年前、写真集でしか見ていなかったフランク・ロイド・ライトの「落水荘」を実際に見て、空間を体感したくなり訪問を決意した。自由行動が好きで、外国は常に一人旅と決めているので途中の苦労は多い。アメリカの広大さにあきれながら、やっとのことで目的地近くのペンシルバニア州のピッツバーグに到着した。そこから

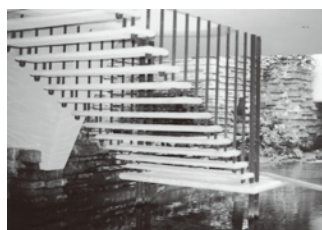


外観(メンテ用のはしごがあった)

80kmほどの場所に「落水荘」は位置する。ピッツバーグ市内からツアーバスが出ていて、それに参加した。1時間半ほど走ると現地に着く。森があるだけで建物は見えない。山道をしばらく歩くと見覚えのある姿が現われた。写真集の表紙にある滝の上にテラスが張り出す面ではなく裏側である。玄関は意外にこじんまりしている。それに続く居間とテラスの広さと、眺望には驚かされた。天井高は低めに設定されている。天井まである窓により外部との連続性がつくられている。

「落水荘」は世界中で今まで建てられた最も美しい住宅の一つである。ライトの娘イオワナ・ロイドが著した「Man In Possession Of His Earth」によると「ライトがベア・ランの敷地を訪れた時、川の上の丘に岩石が横たわっているのに気付いた。その時ひらめいた。ここに暖炉があり、この大きな岩の上に幅広の煙突が乗る。すべての部屋やレベルがそれに関連づけられる。」

建物は様々なサイズの単純な長方形によって構成されている。それらがグループ化され、より大きなユニットとなり垂直に、水平に組み立



川面に降りる階段

てられている。建物は訪問者に様々な表情を見せる。そのフォルムは、この場所にあるのが当然というように存在する。突き出た岩棚の上に長い水平線が構成される。滝の脇には

短い岩が突出している。水平なコンクリートの平面(張り出しバルコニー)と、鉛直の石の平面(壁と暖炉)が幾何学的に構成されている。露出したいろいろな岩が構造体としてデザインされている。石の柱脚と壁が川床の岩に直接建っている。広い居間は、突き出した岩にこれらの柱脚で支えられている。キャンティレバーの長さに圧倒される。

立面図を見ると5つのレベルで構成されていることがわかる。最下層は滝そのもの。2層目はコンクリートの柱脚と、上の層から吊り下げられた階段。それは居間から直接川へ降りることができるように造られている。3層目は魅力的な暖炉と滝を見渡すことができる居間である。建物へのアプローチの道もこのレベルにある。4層目は寝室やゲストルームと他のテラスである。最上層はテラスとギャラリーとなっている。

ウォルナットの本棚や低くて広いテーブル、室内に露出している岩、そして東洋的な織物や毛皮が石張りの床に敷かれて豊かなインテリアを作っている。部屋につながる小さなバルコニーや広いテラスが、異なったレベルから樹々やしゃくなげを見ることを可能にする。小鳥のさえずりや、せせらぎの音さえも異なって聞こえる。



居間

ライトは一時不遇の時代を迎えたが、この「落水荘」で名声を取り戻した。その時、彼は69歳であった。帰途の時間が迫り、豊穡な環境と珠玉のような空間に至福の時を過ごしたので、去りがたい思いを残して「落水荘」を後にした。

建築家ピーター・ブレイクはその著書「The Master Builders」に著している。「ライトは死の1週間前にタリ阿森で語った。『人生を知るべきです、自然を根元的に学ぶことによって。』」今、改めて彼の遺した言葉の意味を噛みしめている。

町並み散策ばらり in 神奈川



Merry Christmas



横浜山手西洋館めぐり

Bluff No.18 / The Home of Diplomat / Berick Hall
 Grismann Residence / Bluff No.234 /
 British House of Yokohama / Bluff No.111

- ①ブラフ18番館 ②外交官の家 ③ベーリック・ホール ④エリスマン邸
 ⑤山手234番館 ⑥横浜市イギリス館 ⑦山手111番館

1



ブラフ18番館

(横浜市認定歴史的建造物)
 外国人住宅として、関東大震災後に山手町45番地に建てられた。戦後はカトリック山手教会の司祭館として平成3(1991)年まで使用。横浜市は部材の寄付を受け、平成5(1993)年に現在地に移築復元、一般公開。

